

『幼稚園の現場から』

14・「避難訓練・津波対策」

原町幼稚園（静岡県沼津市） 園長 鶴谷圭一

震災から子どもたちを守る！

前は、紫外線から守る！というタイトルでしたが今回は「震災から守る！」です。

最近の幼稚園や保育園は子どもたちをいろいろなものから守らなければなりません。地震、津波、火事、台風、放射線、高温（熱中症）、紫外線、流行性の病気、不審者、アレルギー、怪我、人間関係、害虫、害獣、親？…まず子どもたちが安心して生活できる前提があって、はじめて教育活動が出来るということは、当たり前のことですが、挙げればきりがありません。

文科省の管轄下にある学校法人ですから、世間で何か事件や事故が起こる度に、文科省から「お宅は大丈夫ですか？」という文書がメールで届きます。注意喚起だけの文書、対応を報告しなければならない文書…次々に届きますので、ほんとうにいろいろな事をそれぞれのケースに合ったレベルで決めていかないと「守ること」に振り回されかねない状況もあります。

そんな中で、今できる最高レベルでの対応をして、その内容を利用者（園児の保護者）に周知しなければならないのが「震災」への備えです。

静岡県の現状

静岡県はもともと東海地震の発生地帯ということで、学校の耐震化は他地域の約2倍の基準で（全国基準Is値0.6に対し県基準はIs/Et値1.0）積極的に耐震化を進めてきました。そのおかげで県内学校の県基準の耐震化率は私立幼稚園で92.4%（平成23年度）と高く整備されています。

原町幼稚園も2009年に園舎を建て替え、耐震化の非常に高い構造でしたので、震災前は地震と火事の想定で避難訓練を行っていたら、ほぼ安心という気持ちだったのです。

しかし、2011年の3.11東日本大震災以降、原町幼稚園の避難訓練もやり方を大幅に変更しました。今までは頭の片隅にしか存在していなかった「津波」が、その大きな脅威を伴って「どうするんだ！」と迫ってきたからです。

それまでは東海地震だけだったのに、南海トラフ巨大地震という最大級の想定が現実味を帯び、耐震性だけで無く非構造部材（建物にあとから付けてあるもので天井板などの落下物）の対策など、新しいデータに基づき新たな対応が生じてくるとともに「これで大丈夫」という気持ちは常に持てなくなってしまいました。

これは日本中の海岸線のそばに住む人々に共通することだと思いますが、通学区に境界のない幼稚園や保育園では、その影響が顕著に現れました。翌年から沿岸部にある園の入園児数がガクッと減り、内陸部の園がグッと増えたのです。静岡のあ

る地域は2クラス分、約60人以上の人数が動いたところもあるのです。原町幼稚園も海から500mに位置しますので影響は避けられませんでした、更にあれから3年経ち現在は、じわじわっと人々が内陸に移動し始めているのを感じます。

さて、本題に戻しましょう。

原町幼稚園の避難訓練は主に地震と火事の2種類に分けられますが、今回は地震について書いていきますが、まず3.11前の訓練手順を見て下さい。

- ①「地震が発生しました」という放送を入れる。或いは鐘を鳴らしながら避難を喚起する。
- ②机の下に隠れて落下物から身を守る。(放送がなくても揺れたら隠れる習慣づけ)
- ③「ゆれが治まりました、避難を開始して下さい」という放送があったら避難開始。
- ④防災ずきんをかぶり、ハンカチで口を押さえて先生について外に出る。
- ⑤このときに「お・か・し」のきまりを守って速やかに避難場所の園庭へ移動。
- ⑥園庭に着いたら先生に点呼してもらい、全員の安全を確認する。

以上が子どもの動きです、職員は人数把握、初期消火や通報訓練などの動きを確認します。

《お・か・し》のきまり

- ・押さない
- ・駆けない
- ・喋らない

たいていの幼稚園で取り入れられていると思いますが、「駆けない」が子どもにわかりにくいので「走らない」だよ、と言い換えたりします。「おはし」のきまりでも良いわけですね。

園庭から屋上へ

3.11以降、大きく変わったのは避難場所です。それまでは「建物から離れる」ことが避難の大前提だったわけですが、津波から逃げるには少しでも高いところへ移動しなければなりません。残念なことに原町幼稚園の周辺には高台も無ければ、10分以内に逃げ切れるような高くてしっかりした建物はありません。「園舎の屋上に逃げるしかない」という結論でした。

2013年6月に公表された「静岡県第4次地震被害想定」のレベル2（最大クラスの地震・津波想定）によると、沼津市の建物全壊、焼失は約6,000棟、最大津波高は10m。

幸いなことに園周辺の津波は2.8mで17m高の堤防でじゅうぶん防げる想定でした。駿河湾の海岸線が直線的な地形になっているからかもしれません。正直ホッとしました。

幼稚園の建物は地震での倒壊は無いと言い切れるほど頑丈なので、屋上に逃げられるわけです。データーをいいますと、海拔8mの地面に2階建ての園舎、その屋上までの高さが7mあるので、もし堤防が決壊しても15mを確保できています。では、安心かということ、先に書きましたように「これで大丈夫」という気持ちにはなかなかないものです。

「もし、想定以上のものが来たら…」ということは常に頭にあるわけです。そこで助かる可能性が1%でも高くなるならばそれを実践しようと、ライフジャケットを導入することにしました。

では次のページで今年度第1回目の避難訓練の計画書をご覧ください。



平成 25 年度 第 1 回避難訓練 (地震・津波訓練)

《ねらい》

- 命を守る大切さを知り、そのためにどう行動すれば良いかを身につける。
- 地震発生時の行動の仕方と避難の仕方を覚え、実際に地震が発生したとき、冷静に的確に行動ができるようにする。
- 押さない、駆けない、喋らないの 3 つのきまりを守り先生の指示を聞きおちついて避難する。

(教職員)

- 園児を安全に速やかに避難誘導し、いのちを守る対応が的確にできるように訓練する。
- 一人の見落としもなく、全員の避難を速やかに確認する。
- 日頃からの出席人数の把握を習慣づける。
- ☆屋上に避難することの問題点、対策、避難後の対処などを洗い出す
- ☆想定される問題：混雑、所要時間、広さ、火災時の対処、必要なもの、滞在時間…

《日時》 2013 年 5 月 20 日 (月) 10 時 20 分開始

《訓練内容》

- ①地震発生という想定で、園内放送を流す。
→ ・机の下などに隠れる ・ドアを開ける ・出席簿を持つ
 - ②ゆれがおさまったという想定で、園内放送を流す
 - ③避難開始
 - 1) 年少・年中は屋上へ →人数確認→人数報告→ライジャケ装着
※ライジャケの装着が出来た子どもはしゃがみ、まだの子どもは立って待つ
 - 2) 年長は一旦わくわくホールへ→人数確認→人数報告→ライジャケ装着→装着後屋上へ
 - ④1 階から上がる職員 (※職員名) が火災の有無を確認し、携帯電話、名簿をもって屋上へ
 - ⑤揃ったら再度人数確認→人数報告
 - ⑥避難誘導完了→避難訓練についての話→解散
- ※この後「待機」と情報収集、情報発信

《事前準備》

- 各クラスにて地震の際の避難のしかたについて話をしておく。紙芝居の活用等。
- ◎うくっしょんを装着練習し、ハーネスをゆるめておく。
仰向けで浮くことで安心なことを聞き、床で楽しくリラックスしながらシミュレーションしておく。※ことさら脅さないようにする。
- 避難の仕方について確認する。
 - ・地震の時は、まず落下物や倒れてくるものから身を守り、あわてて飛びださないこと。
 - ・誘導に従い、お・か・し、のきまりを守って避難すること
 - ・保育室に残ったり、隠れたりしないで、先生の誘導に従うこと
 - ・狭い屋上で人数を数えるので、数えやすいようにクラスごとに並ぶこと
 - ・ライジャケの装着手順の練習
- ◎普段から行っておくこと
 - ・クラスの出席人数を常に把握
 - ・園生活マニュアルで地震発生時、東海地震注意情報などの対処について読んで確認しておく。
- 園用「うくっしょん」の確認
- 全園児名簿と災害マニュアルを屋上に常備 ・備蓄品の管理 ・情報発信のための準備
- ◎園バスコースでの避難場の指定と確認

計画書を見て頂くとわかるように、

***防災ずきん → ライフジャケット**

***園庭に避難 → 屋上に避難**

***点呼で終了 → 点呼の前にライジャケ装着**

の3つが大きく変更されました。

避難訓練は、何回も繰り返して身体に動きを覚えさせるものですから、つい園庭に逃げ出さないように頭を切り換えなければなりませんでした。

年間6回の訓練を行いますが、年少児が入園して落ち着いた頃に、第1回目を行います。もう少し早くても良い気がしますが、避難訓練の緊張感がこわくて幼稚園が嫌になってしまう子どももいるので、最初は落ち着いて段取りを覚える事を目的とします。回を重ねていくと、自由に遊んでいる時間や抜き打ちの時間に訓練を入れてバージョンアップしていきます。

ライフジャケット

ライフジャケットを全員が装着し終わる目標時間は5分です。ライフジャケットの導入から扱いについて説明します。

■浮くっしょん

2012年度から防災ずきんをやめてライフジャケットに切り替えました。数ある種類の中から選んだのは、モンベル社の浮くっしょん。レジャー用と違って津波対策として開発されたことと、クッションタイプで管理が整然とできる点を評価しました。

ただ、装着すればOKではなく練習が必要だということが後にわかったのですが、これは後述します。

「浮くっしょん/モンベル製」

http://about.montbell.jp/release/disp.php?infomation_id=167

■整備の手順

ライフジャケットを園の備品として備えることも考えましたが、個々に購入して頂くことにしました。ネームプレートに個人情報を書けるので、万が一流されたときに個人が特定できることと、避難時に職員が速やかに子ども本人に浮くっしょんを手渡すことができるように、背にマジックで大きく名前を書くためです。

園児以外の来園者、大人用、休日の預かり保育の子ども用は園で備えました。

■置き場所

浮くっしょんの売りの一つがクッションとして普段使いつつ非常時に装着できる、というのですが、幼稚園では自分のクラスに常に居るとは限らないので、まず屋上に行け！その次に浮くっしょんを装着しよう。という流れにしてあります。

なので、屋上にクラスごとに袋（IKEAの大きいブルーの買い物袋がピッタリ）に入れて常備し、長い休みは家に持ち帰ります。ほんとうは、毎日持ち帰るほうが良いと思いますが、子どもの持ち物が増えることと管理を考えると、毎日は難しいと考えました。

■練習が必要

浮くっしょんは、流れてくる瓦礫から頭を守り、水中で足が障害物にぶつかったり引っかかったりしないように、仰向けの姿勢で水面に平行《ラッコちゃんの姿勢》で浮かぶように設計されています。レジャー用の物だと力を抜くとうつ伏せに倒れてしまう危険がありますが、浮くっしょんは気を失っても気道を確保するというコンセプトになっています。

しかし、仰向けがこわいのです。

水慣れしていない子どもたちは仰向けになることができません。ざっと数えてみると仰向けで問題なく受けるのは年少児の20%、年中児は50%、年長児は80%でした。これでは本番に役に立たない。

そこで練習が必要になるのです。

今年の夏に保護者向けに発行した園便りをご覧ください。

☆ライフジャケット・浮くっしょんの練習を！

夏休みに、浮くっしょんを持ち帰ります。

昨年は東部スイミングスクールさんの協力を得て大きなプールで着用訓練を行いました。いきなり大きくて深いプールに行くのは抵抗感が大きいだろうということから、今年は園のプールでやってみました。安心感があったようで、最初怖がっていたお友だちも、徐々に慣れる様子が見られました。(年中長)

年少さんははらっぱ発行の前に訓練ができませんでしたので、夏休みに家庭でやっていただく練習に期待します。水慣れしてしまえば、なんでもないことですが水が怖いお友だちは、なかなか仰向けに浮くことができません。ご家庭でもいざという時に備えて浮くっしょんの練習をしておいて頂きたいです。

☆練習のポイント

■最初に！正しく装着すること！

- ・ウエストベルト、股ベルトはしっかり締めて身体にライジヤケを密着させる。(必要以上に締めすぎない)
- ・バックルがしっかりしまっているか確認する。
- ※ベルトがゆるいとクッションだけ浮いて
自分は沈んでしまいますので注意して下さい。

■浮くっしょんを装着しての練習手順例 (参考に！)

『ラッコちゃんになろう！』

①大人が支えながらゆっくりと仰向け (ラッコさん浮かび) に浮かべて引いてあげる。

point : 恐怖心を持つと身体を固くしたり、手足をバタつかせて不安定になってしまいます。あくまでもやさしく、身体をつかんで横向きに、慣れてきたらクッションで頭を包むように持ってあげて気持ちを安心させながら仰向けでゆらゆら引っ張ってあげます。とにかくリラックスリラックス！



持ってるからだいじょうぶだよ

②慣れてきたら、徐々に手を離して 自分だけで浮いていることに気付かせる。

point : 頭をホールドしていると安心感があって、子どもの手はおなかのおにぎり型のクッションの上に、ラッコちゃんの姿勢完成です！そしたら、「ちょっと手を離してみるよ～」とゆっくり離して自分だけで浮いていることを感じてもらいます。このとき、耳に水が入るといやがる子がいるので徐々に慣れていきましょう。
浮くっしょんをつけると浮いた姿勢から立ち上がりにくくなるので、不安になったら起こしてあげます。



頭がホールドされているので安心

③浮かぶことに抵抗がなくなったら、バタ足で進んでみる。



ほら、じぶんであういてるよ！

point : ここまでくるとかなり良いです。手も使って仰向けカエル泳ぎのように進むことも出来ます。更に自分で自由に体勢を変えられれば完璧です。泳げなくても、浮くっしょん頭がホールドされているので安心やレジャー用ライジヤケを付けたまま海や川で楽しめます！

※レジャー用ライジヤケもバランスを崩すとひっくり返って起きられないことがあるので練習は必要です。

この手紙の最後は次の文章で締めくくっています。

さいごに！とっても大切なこと！

練習というと、一生懸命やり過ぎる大人の方がいます！

なかなかできないとイライラしたり、口調がきつくなったり。子どもは、水がこわいのにもう一つこわいことが起こって練習どころではありません。泣き出してしまったりして、二度と練習

したくなくなります。…これでは**逆効果**になってしまいますので、

子どもにとってはあくまでも**“たのしい水あそび”**としてお子さんの性格に合わせて取り組んで下さい！

さて、今回は津波の心配の無いところに住んでいらっしゃる方には現実味の無い話題だったかもしれません。ライフジャケットを園用とは別に家庭用として購入される保護者の方は、初年度は数人いらっしゃいましたが、現在はほとんどいません。すでに防災意識も薄れてきたのか、第4次想定で安心したのかもしれません。

私のオススメは、幼児～小学校低学年のお子さんを持ちの方は、ライフジャケットを持っていくと良いですよ、ということです。夏の水の事故も毎年減りませんが、海や川のレジャーの時に子どもに浮き輪ではなくライフジャケットを装着させることで、一緒に遊ぶ親の安心感は倍増しますし、行動範囲も広がります。防災意識も高められ、いざという時に浮けば助かるんだ、という意識を持っていただけるようになるでしょう。リビングのソファに、それから自家用車にも装備しておく、いつどこで津波に遭っても助かる確率0%か1%以上の可能性か、その違いは大きいと思います。



ツルヤシュイチ

(幼稚園勤務32年/うち園長11年)

<http://www.haramachi-ki.jp>

mail : osakana@haramachi-ki.jp